

成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン

1. 学 校 名 市川市立塩浜学園 (千葉県)
2. 活動テーマ名 塩浜の生物と環境 ～嵐潮ひかる海原に～ (塩浜ふるさと防災科の実践)
3. 実践の概要・ねらい

平成28年度より義務教育学校「市川市立塩浜学園」となり「ふるさとを愛し、自ら夢を持ち、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成 ～人をつなぐ 未来へつなぐ～」の学校教育目標の下で教育活動を展開している。経営の重点の一つ「塩浜ふるさと防災科」の深化・充実を図るために、上記のテーマで海洋教育パイオニアスクールプログラムに取り組み、2年目となる。9年間の「学びと育ち」をつなぎ、「系統性・連続性」を重視した教育の具体的な姿として、「塩浜ふるさと防災科」の目標「ふるさと塩浜の歴史や自然環境に触れて理解を深めたり (以下省略) を具現化するために、本年度も継続して海洋教育に取り組み、実践を重ねてきた。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画、教科との関連

9年間の学びをつなぐ「塩浜ふるさと防災科」は、以下の4つの推進の視点を掲げている。

- A 人間として生き方に迫る
- B 防災リテラシーを身につける
- C 地域への理解と愛着を深める
- D 科学的理解を深める

今回の取組は、主に上記Cの中の単元開発(2年目)となる。活動内容の一覧は、別紙の通り。実施初年度は、5・6年が実際に船に乗って隣接する東京湾に赴いた。普段経験したことがない「海からふるさとを眺める」ことで、児童たちにたくさんの「気づき」が生まれた。児童の感想や意見から学ぶ意欲の向上が見られている。(現在も学習は継続中である。)そこで、平成29年度においてもフィールドワークを重視し、発展期の取組「東京湾命のゆりかご三番瀬を守れ」「創ろう!残そう!未来の塩浜!夢の塩浜大計画」につながる単元になるように実践を継続したい。学習内容と資料等はカルテに記録し、子どもの学びの視点から実践を積み上げていく。実施の留意事項としては、以下の通り。

- ・学年ブロックの中で活動し、学年ブロックをまたいで交流(発表・発信等)を行う。
- ・学習の中で、地域の方々や市役所や関係団体、NPOなどとの連携を図る。
- ・地域の方々や保護者、教育委員会関係者が集い学校経営を支える組織(学校運営協議会)より意見や助言をいただき、教育委員会と共同歩調で進めていく。

※ 塩浜ふるさと防災科全体計画は別紙参照。

活動計画は、以下の通り。

- 5月 つかむ ・カワウの大群が東京湾に向かう映像を見て、東京湾への興味・関心を持たせる。
- ・実際に東京湾に行き、海から陸を眺める。分かったことや感じたこと、疑問を出し合い、共有する。
- ・キーワードに関する資料や情報を読み、 (写真①) そこからさらに深めたい内容をみつける。(写真②)



写真①



写真②

- 6月 しらべる
- ・より詳しく調べたい内容が同じ人でプロジェクトチームを作り、テーマを決める。
 - ・調べる方法を考えて企画案を作り、提案する。
 - ※ この授業を研究授業にして、広く公開し、チームとしての取組にする。
 - ・提案した意見を元に、企画案を修正する。(写真 ③)



- 7月 しらべる
- ・企画案をもとに様々な方法を用いて調べる。
 - ・取材&インタビュー (写真 ④)
(漁師さん、専門家・保護者や地域の方々 等)
 - ・さらに深めたいところを「夏の課題」として取り組む



- 9月 まとめる
- ・集めた情報をまとめ、発表の準備をする。
 - ・保護者や地域の方々に向けて発信する。(写真 ⑤)



教科等との関連 (時間数)

国語・・・「言葉と事実」「話し言葉と書き言葉」「意見交換会をしよう」

「効果的に発表しよう」(各2 計4時間)

理科・・・「流れる水のはたらき」(1時間)

社会・・・「水産業のさかんな地域」「わたしたちの生活と環境」(各1 計2時間)

家庭科・・・「かたづけよう 身の回りの物」(1時間)

② 実践の評価について

専用の学習ファイルに学習プリントや資料を蓄積させる。記述内容やまとめ方等を評価する。

実践の終わりに、意識調査(アンケート)を実施して、児童の意識を確認する。

塩浜ふるさと防災科 意識調査(5~7年生用) (実施日 年 月 日)

- A① 他学年や地域の方々と交流する学習を通し、人や地域とつながることの大切さを感じていますか。
- A② 思いやりのある豊かな心が身についていますか。
- A③ 表現力やコミュニケーション能力を身につけていますか。
- B① 災害発生を想定した問題意識を持って活動することができましたか。
- B② 災害に直面した時に自ら考え行動する力を身につけていますか。
- C① 地域の歴史や自然環境、そこに生活し、地域のよさを守ろうとしている人々がいることを知っていますか。
- C② 地域を良く理解していますか。
- D① 理科、社会、算数・数学など他教科との関連を活かしながら学んでいますか。
- D② 地域の土地の様子、自然環境、自然災害の種類と発生のメカニズムなどについて理解を深めていますか。
- ◇ 塩浜ふるさと防災科を学んでいるうえでの感想を書きましょう。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

変更点

申請当初は、5～7年生のMブロックでの活動を想定していたが、諸々の事情により、5年生のみの実践となった。

追加点

来年度の「海洋教育」につなげていくために、3・4年生の「季節と生き物 行徳湿地の四季」を海洋教育の視点でつなげていくこととした。(平成30年度も申請済み)

②実践の成果

授業の改善の視点から

- ・船上学習を通して生まれた疑問やキーワードを整理していく過程を設けることで、児童自らが課題をみつけ、意欲的に取り組むことにつながった。また、思考ツールを活用できた。
- ・ICT機器(タブレット)を用いて企画案を紹介する場を設けることで、学習活動の目的が明確になるとともに、効果的に伝えるためにはどうすればよいのか見通しを持たせることができた。

児童の変容の視点から

- ・東京湾の良さに触れ、親しみを持つことができた。また、三番瀬の学習を通して、生物の住む東京湾の環境が変化していることを知り、環境を良くしようとする態度が表れた。
- ・赤潮や青潮が発生するメカニズムを学び、日頃の生活排水を減らそうと取り組む姿がみられた。
- ・自分たちの身近にある東京湾をきれいにしようとしている人がいることに気づくことができた。
- ・自分たちのテーマについて調べたことを効果的に発表する力をつけることができた。

連携推進の視点から

- ・「活かす」段階で、家庭にも協力していただき、家族ぐるみで生活排水を減らす取組を行っていた。また、調べる課程で児童と一緒に関わったことで、保護者の関心が高まった。
- ・船橋三番瀬環境市民センターの方にご協力いただき、児童の疑問を解決する場を設けることができた。児童と地域の方をつなぐ第一歩となった。

③ 次年度への課題

児童の関心や意欲を高めるためには、体験的な活動が効果的である。船上学習には費用がかかるため、助成金等は非常に助かる。

児童の調べるテーマによっては、調査が難しいものもある。教職員の事前のリサーチと、教職員自身の研修が重要である。

関連する教科と連携していくためには、関係する教職員との情報共有・連携が必要である。

6. 主な連携機関 及び 内容

伊藤遊船

東京湾のクルーズ

船橋三番瀬環境市民センター

調べていくうえでの疑問点を伺った。

塩浜ふるさと防災科 活動内容一覧（目標と推進の視点・各期の系統性等のかかり）

目標		ふるさと塩浜の歴史や自然環境に触れて理解を深めたり、自然災害発生を想定し、それに備えて地域の方々と協力しながら自ら考え自ら進んで活動したりすることで、地域に誇りや愛着を持った思いやりのある豊かな心と、自主的に問題解決を行う、たくましく生きる力を育む。										
推進の視点		A			B			C			D	
推進の視点		人間としての生き方に迫る			防災リテラシーを身につける			地域への理解と愛着を深める			科学的理解を深める	
発展期・Lブロック	目標	(1)地域の自然に関わる活動を通し、その大切さに気づき、自然を守ろうとしたり、その大切さを地域に発信したりすることができる。 (2)これまでの学習を活かし、塩浜の街づくりや環境についての構想や課題をまとめ、発信することができる。 (3)地域合同の避難訓練を主体的に計画・実行することができる。										
	内容	他学年や地域の方々や交流、連携する学習を通し、人や地域とつながることの大切さを感じ、思いやりのある豊かな心を育み、表現力やコミュニケーション能力を身につける。			災害発生を想定した問題意識を持って活動し、災害に直面した時に状況を的確に捉えて自ら考え行動する力を身につける。			地域の歴史や自然環境、そこに生活し、地域のよさを守ろうとしている人々がいることを知り、地域に誇りや愛着を持つ。			理科、社会、数学など他教科との関連をいかにしながら、地域の土地の様子、自然環境、自然災害の種類と発生のメカニズム、有効な対策等について理解を深める。	
	カテゴリ	夢の実現	人との関わり		社会貢献	危機回避力	災害に関する知識	地域の歴史と産業	地域の自然	自然の仕組み	防災の科学	
	活動	9年	未来への扉 高校進学にむけて	地域へ発信 他地域の暮らし	地域へ発信 未来の塩浜	共助 幼稚園訪問	救命講習 AED体験	減災に生かす情報	創ろう！残そう！ 未来の塩浜！ 夢の塩浜大計画	東京湾 命のゆりかご 三番瀬を守れ	自然のつりあい	自然災害 研究所
8年	中大連携 はまっこ夢大学	未来への扉 職業体験	卒業生に学ぶ	共助 地域で ボランティア	災害の防止 （知識）	気象のしくみと 天気の変化	地震や津波の しくみを探れ					
充実期・Mブロック	目標	(1)災害発生時の危険について知り、それに備えて活動し、考え、調査したことを地域に向けて発信することができる。 (2)避難訓練に主体的に関わることで、災害発生時に自ら判断して行動する力を育む。 (3)地域の自然や環境について学び、理解を深める。また、自然災害への科学的な理解を深める。										
	内容	他学年や地域の方々や交流する学習を通し、人や地域とつながることの大切さを感じ、豊かな心を育み、表現力やコミュニケーション能力を身につける。			災害発生を想定した問題意識を持って活動し、災害に直面した時に自ら考え行動する力を身につける。			地域の歴史や自然環境、そこに生活し、地域のよさを守ろうとしている人々がいることを知り、地域への理解を深める。			理科、社会、算数・数学など他教科との関連をいかにしながら、地域の土地の様子、自然環境、自然災害の種類と発生のメカニズム等について理解を深める。	
	カテゴリ	夢の実現	人との関わり		社会貢献	危機回避力	災害に関する知識	地域の歴史と産業	地域の自然	自然の仕組み	防災の科学	
	活動	7年	卒業生に学ぶ	未来への扉 職業を知る	地域へ発信 災害の備え	共助 3.11を知る	救命講習 AED体験	いざという時 何ができる？ 塩浜の災害 防災マップづくり 避難所について 家族の安否確認	塩浜の生物と 環境 嵐潮ひかる 海原に 海洋教育 ハイオニア スクール プログラム	大地の変化	こちら塩浜 情報局 災害と 地域の土地 のつくり	火山・地震 発生の仕組み
6年	ライフチャート づくり		避難訓練 AEDを知る	土地のつくり と変化		台風と天気						
5年			けがの防止	流水の働き								
基礎期・Sブロック	目標	(1)塩浜の自然、産業、歴史を知り、それに関わる活動を体験することで、塩浜地域に対する愛着心を持つ。 (2)災害発生時に、自ら適切な行動ができ、周囲の人と助け合うことができる。										
	内容	他学年と交流する学習などを通し、人や地域とつながることの大切さを感じ、表現力やコミュニケーション能力を身につける。			地域で起こりやすい災害などについて知り、自ら考え行動する力を身につける。			地域の歴史や自然環境、そこに生活する人々について知り、地域を理解する。			理科、社会、算数など他教科との関連をいかにしながら、地域の土地の様子、自然環境、生物などについて理解を深める。	
	カテゴリ	夢の実現	人との関わり		社会貢献	危機回避力	災害に関する知識	地域の歴史と産業	地域の自然	自然の仕組み	防災の科学	
	活動	4年	1/2成人式		自助	災害発生 自分を守る 皆を守る	防災倉庫に 何がある？	塩浜の由来 江戸から続いた塩作り	海洋教育 ハイオニア スクール プログラム	季節と 生き物	行徳湿地 の四季	
3年	行徳の歴史		災害時の 学校の施設	行徳の歴史探検 塩浜の海と海苔作り								
生活科	活動	2年	自分発見	わたしの町探検	もうすぐ3年生		避難訓練		わたしの町探検	春 発見		
					1年生を迎える					生き物発見		
		1年	ともだちを たくさんつくらう	学校探検	もうすぐ2年生		避難訓練		家族と一緒に お正月	花や野菜を 育てよう	みんな風の子 風・影の遊び	
		自己紹介 集団ゲーム				わたしたちの 通学路		お年寄りから 昔遊びを学ぶ	生き物と仲よし			

